

【研究活動報告】

互いのよさを認め合う 人間関係作りの支援

キーワード：アサーション・人間関係作り・人権教育

浦田 誠一 (Urata Seiichi)

1 実践のねらい (人権教育・特別活動)

いじめ、不登校、問題行動等の生徒指導上の人権教育課題が多い現状の中、これらの諸課題の解決を図るとき、多くの場合、問題解決型生徒指導が行われる傾向にある。それは表面的な指導に終わり根本的な解決に至らないことが多い。

児童の学ぶ意欲の向上や自己肯定感を高めるためには、問題解決型ではなく、開発的・予防的プログラムを積極的に取り入れる必要がある。

本校児童は、「笑顔あふれるA小学校」を合い言葉に、明るく伸びやかに学校生活を過ごしている。素直な面が多く見られ、自分の責任は工夫しながら果たす児童が多い。一方、児童ひとりひとりに目を向けてみると「集団になじめない」「自尊感情が低く、自己肯定感が持てない」「自分と違うことには排除傾向がある」「問題解決方法が短絡的である」などの課題も抱えている。

令和4年度全国学力調査 児童質問紙でも、全体的に自己肯定感が低い、または、低くなってきているという傾向が見て取れる。※1

そこで、本研究において、児童が自分を大切に相手のこと考えることのできるコミュニケーション能力向上を目指した積極的な学びの一方策として「アサーション・トレーニング」を活用したいと考えた。

アサーション・トレーニングとは、自分も相手も大事にして、自分の主張はしっかり伝えるものの、相手は傷つけない、絶妙なコミュニケーション方法である。また、認知行動療法のひとつともいえる。

今回、アサーション・トレーニングで学び合うことで児童は「自分や他者を大切にする心」「人間関係を大切にする心」を学ぶことができ、「よりよい人間関係」を育むことにつながると思われる。その結果、児童は、自信を持って「自分も相手も大切に思えるよう

な＝アサーティブ」な関わりができると考えた。

2 実践事例 (5年生) ※2

(1) 主題名 「自分の考えや思いを友だちに伝えよう」

(2) ねらい

身近な掃除の友達にやってほしいことを話す場面で、自分も相手も「すっきり」する会話を考え、実際にグループごとでロールプレイングすることを通して、相手のことも考えながら、自分の思いを伝えることの大切さに気づくことができる。

(3) 人権教育の視点

- ・自信を持って考えを表現することができる。
- ・友だちの感じ方や考え方を尊重し、話したり聞いたりする。

(4) 実践の概要

学習活動	支援 (発問) と反応
○課題を確認する 「あなたは、教室掃除で雑巾がけをしています。」	○『ちくちく』『もじもじ』をお互い言ってみて、どんな感じだったか感想を書き、発表しよう。グループでロールプレイをする。 ○それぞれどんな気持ちになったか。
ほうきの青木君のはきかたが悪く、ゴミが残っています。」	◎ ○ △ ちくちく言ってみてどんな気持ち 4人 多数 6人 ちくちく言われてみてどんな気持ち 2人 5人 多数 もじもじ言ってみてどんな気持ち 0人 5人 多数 もじもじ言われてみてどんな気持ち 0人 0人 全員
○すっきり伝える言い方を考える。	○自分も相手も◎になる言い方・すっきりする言い方を自分で考えよう。考えた台詞をオクリンクで送ってください。
○自分で考えた台詞を友達に伝え、どんな気持ちになるか、言われた方はどんな気持ちになるか、やってみる。	○自分の考えた台詞を友達に伝えてみよう。ロールプレイで ○言う人、言われた人や見ていた人は、どんな気持ちか話合おう。Aグループの反応 C6: ?をつけてある。何で。C7: ?をつけると強く感じない。C8: 今度は気をつけようねと照れ笑いする。C9: はいてくれると優しく言う。
○「すっきりな言い方」のロールプレイをして、それぞれどんな気持ちになったか、発表する。	○自分の考えた台詞を、友達に伝えてみよう。言われた人や見ていた人は、どんな気持ちか話合おう。 C: 言いたいことが言えたように感じた。 C: 気持ちがいい。はっきり言えた。 C: 相手の気持ちも伝わり、すっきりした。 ◎ ○ △

	<p>すっきり言ってみてどんな気持ち 全員 0人 0人 すっきり言われてみてどんな気持ち 全員 0人 0人</p> <p>T: すごいね。 ○みんなの考えた台詞を公開する。 ●ひとりひとり他の人の台詞を楽しそうに読んでいる。</p>
<p>○感想を書こう。</p>	<p>○今日やってみてどんなことを感じたか、感想を書こう。 C: どんな言い方をするかで相手も自分も気持ちが変わる。 C: 何か伝える時には、伝える言葉で自分の気持ちを話したい。 C: すっきりした言い方をすれば自分だけでなく周りの人も気持ちよくなる。</p>

3 まとめと課題

- 児童にとってわかりやすい場面設定であった。そのため考えやすく表現しやすかった。今後、設定のバリエーションを増やしていくことがアサーションスキルを学ぶために必要であろう。
- 人権教育を通して行動化につなげることが大切である。本授業であれば児童が相手に伝わるようなスキルを身につけていくことであろう。また、教育をする側もアサーション・トレーニングについてのスキルも必要になってくる。
- 本授業ではオクリンクを用いて考えを集約して、共有もはかった。テキスト情報は文字なので伝わらないニュアンスもある。声色、勢いなども含めてアサーティブと考え補助発問等で相手意識を表現させたい。
- 次年度以降もアサーション・トレーニングを取り入れた授業構想し実践していくことで互いの良さを認め合う人間関係作りを研究していく。
(オクリンクとは児童の意見を集約できるソフト)

- ※1 令和4年度 全国学力・学習状況調査 児童生徒質問資文部科学省実施
- ※2 長野県北部地区A小学校における実践研究

受理日：2022年12月22日

浦田 誠一
 八洲学園大学 リカレント研究センター リカレント研究員